

<p>団体名</p>	<p>学校法人 ムンド・デ・アレグリア学校</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>外国籍の子どもたちを企業と共に育てる就職支援活動</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当校が実現したいビジョンは、未来ある外国籍の若者と日本社会の共生である。親に帯同し、年齢超過で来日後、学力・能力があっても日本語能力がないために、希望する就職ができず、非正規労働者となる選択しかない外国籍の子どもたちが少なくない。帰国予定のない若者が日本社会で活躍し、日本人と共生するためには、教育機関と企業が密に連携して、彼らに必要な日本語学習を継続させ、必要な情報を正しく与え、安定した正社員雇用につながる機会を提供するべきである。</p>		<p>【職場見学】 （リサイクル会社）</p> <p>コロナ禍で訪問が叶わないため、視点を変え、当学校の倉庫の大量の不用品に着目し回収の過程を学んだ。昨年度、同会社へ訪問し工場での職業体験も実施</p>	
<p>団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>当校の社会的役割は、子どもたちと企業をつなげることである。2003年の創設以来、長年外国籍の子どもたちの母語教育に携わり、行政、地域社会、教育機関、地元企業などと積極的に連携を進めてきた実績を持つ。その経験を基盤として、自治体・専門家・地元企業と共に外国籍の子どもたちへの就職支援体制を構築し、そのノウハウを社会に発信することをめざす。将来的に、本校の就職支援事業が、地元企業の人手不足問題解消に貢献することも期待する。</p>			
<p>団体の活動基盤</p>	<p>就職支援のために企業との窓口となる常勤スタッフを置き、就職につながる知識、情報が提供できるように育成し、他のスタッフとともに更なる日本語指導強化をめざす。地元企業にできるだけ多く訪問・見学できるように学校・企業間の移手段を確保し、機会を逃さないように配慮する。就職支援における当校の取り組みを地元ロータリークラブやHPを通して地域に発信し、継続的な地元企業の寄付・支援に繋げる。</p>			
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>●事業①「(A)就職のための日本語クラスおよび(B)日本語能力試験対策の日本語強化クラス」(A)では、卒業年度の生徒を対象に通年週1回の特別クラスを継続設置し、面接履歴書および就職に向けての日本語サポートを行った。(B)はN5からN1までレベル別に通年のクラスを設置し日本語力の強化を図った。</p> <p>●事業②「地元協力企業への職場見学・職業体験」コロナ禍で訪問は4社(延べ5回)に留まった。昨年に続き制限があったものの、代替策として企業の方を当校に招き、出前講座としてキャリア教育を実施。また職場訪問の代わりに企業博物館への社会見学を実施し多分野への理解を深めた。</p> <p>●事業③「卒業生による正規雇用者の就職体験講演会」本校卒業生3名が正規雇用されるまでの課程や仕事内容を先輩に母語で語った。</p> <p>●事業④「本事業システム作りに伴う日本語指導研修および企業との意見交換」スタッフ間ミーティング・勉強会を実施、企業数社の人事担当の方から外国人正規雇用状況のヒアリングを実施した。</p>			<p>●事業①「(A)就職のための日本語クラスおよび(B)日本語能力試験対策の日本語強化クラス」(A)(B)ともに当初の目標設定通り、130回以上の日本語強化クラスを設置した。</p> <p>●事業②「地元協力企業への職場見学・職業体験」期間中10社以上の職場見学、職場訪問を目指したが、訪問先は4社(5回)、当校での職場体験1回、出前講座5回、企業博物館2社への訪問を実施し、コロナ禍という悪条件下でもキャリア教育拡充をめざし、概ね年間の目標は達成した。また本校母語教員による雇用関係ガイダンスも実施した。</p> <p>●事業③「卒業生による正規雇用者の就職体験講演会」正規雇用されている卒業生の中から異業種4名実施の目標に対し、介護職2名(ブラジル課程卒1名、ペルー課程卒1名)、不動産賃貸業の正社員1名(ブラジル課程卒)の3名が母語で実施。第4回目は予定者のキャンセルが続き実施できなかった。</p> <p>●事業④「本事業システム作りに伴う日本語指導研修および企業との意見交換」では、毎月スタッフミーティングを行い日本語指導における研修を行った。在籍生徒、卒業生の就職に向けて3企業(浜松市2社、豊川市1社)から話を聞く機会を設けた。そのうち豊川市の企業へは就職クラス生徒の職場見学が実現した。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<p>●助成1年目は、①母語成績優秀生徒の有望な人材としての企業へのアピール②求められる日本語力の更なる強化③正社員で就職するメリットや目的を明確にし意欲アップに繋げる、④「体験型」で就労へのモチベーションを上げる⑤企業と外国人生徒の文化習慣的なずれを埋めるサポートをする⑥就職するにあたり、運転免許証の必要性を在学中に周知斡旋する、などを確認した。</p> <p>●本年度は、①引き続き、必要とされる日本語教育のレベルアップを図る、②身近な人から成功体験を聞き、自分のこととして捉える機会を提供する、③多業種多分野へ訪問する機会や出前講座を設け、生徒の興味の対象や視野を広げ、正規雇用への意欲を高める、④正規雇用に向けて企業、公的機関などとの連携を強化し、学校が効果的な調整役となること、を確認した。</p>			<p>本事業のキャリア教育を通して、当学校は一人でも多くの正規雇用での就職を目指している。当学校のキャリア教育への取り組みは浜松市内で浸透しつつあり、地域社会への発信力が上がっていることは明確である。しかしながら、企業との理解を得て、当学校から新卒で正社員雇用されても、現実としては、1年以内に退職してしまう者が少なくない。在学中に非正規雇用と正規雇用の待遇の違いやメリットを母語で学び、視野を広げるための職場見学、職場体験、出前講座を実施して、将来的なビジョンや可能性を説いても、結果的に響いておらず、継続的な就労に結びつかない現実がある。外国籍の若者に限ったことではない、とはいえ、日本人よりも正規雇用へのハードルが高い外国人の若者にその価値を理解させていかなければならない。高校生という年齢を踏まえると、「保護者の理解」というよりも、生徒本人が意欲的に正規雇用を望み、努力するように、学校が日本語力アップ、情報提供の両面からさらに支援し、希望者が「努力すれば」個々の本来の能力が認められ、就職できるような社会になることが切望される。</p>	
<p>この1年間の活動を通じて</p>			<p>当学校のキャリア教育への取り組みが認められ、職場体験で訪問した企業への新卒正社員入社</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化</p>			<p>●年度初めに「就職のための日本語クラス」入室希望者が増えた。 ●帰国か日本残留か、卒業後の進路に迷っている生徒の中でも、通年の「日本語能力試験対策クラス」に参加する者が増え、日本語学習全体のモチベーションアップに繋がった。</p>	